

雲仙火山における地磁気の観測*

Geomagnetic Observations at Unzen Volcano

京都大学理学部附属火山研究施設

Aso Volcanological Laboratory,
Faculty of Science, Kyoto University

地磁気全磁力変化

第1図は、普賢岳山頂部における地点N2, N3, N4, S0, S2, S2.5, S3, W0及びSWの地磁気全磁力変化である。プロトン磁力計による00時から3時59分までの5分ごとの測定値を平均して夜間平均値とし、その値から火山研究施設における同時刻の測定値を減じて単純差を求め、これを日値としたものである。

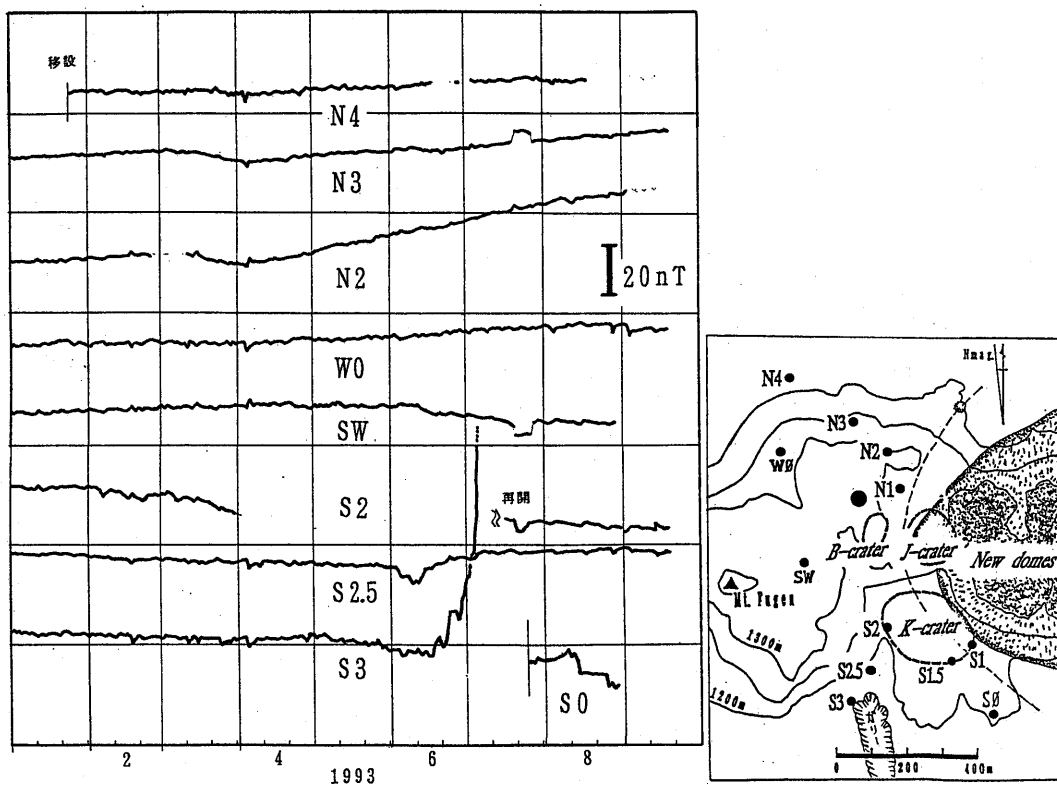
地点S2での観測は、溶岩ドームの南西側への崩落で観測機器が破損したために欠測したが、7月中旬に再開した。

ドームの南側の地点S2.5及びS3の6～7月にみられる特異な磁場変化は、九十九島火口の南側の沢で発達している崖崩れの影響である。地点S3での観測は破棄し、これを地点S0に移設した。

地点S2及びSWでは、磁場の減少が続いている。また、ドームの北側の地点N4, N3, N2及びW0では、4月以降、再度、磁場は増加している。

6月19日から8月18日までの60日間の消磁の中心は、第1ドームの北160m, 西140m, 深さ110m付近と推定される(図の大きい黒丸)。

* Received 30 Nov., 1993



第1図 雲仙岳山頂部におけるプロント磁力計による1993年1月から9月までの地磁気全磁力変化

Fig. 1 Geomagnetic total intensity observed at points near Jigokuato Crater on Unzen Volcano during the period from January to September in 1993.